

ぱりっこ会議から市政への 提言プロジェクト

メンバー数：6名 活動場所：名張市
実施主体：名張市役所 子ども家庭室
担当教員：山本 智子（教育学部）
活動年度：R1

- 最後の振り返り（2月9日）
- 教育フォーラムで市長に提言（12月7日）
「なばりん」が名張市のゆるきやらとして公認される
- ぱりっこモールの最終準備（11月10日）
- ぱりっこモール本番（11月24日）
- 名称「なばりん」に決定（10月13日）
- 教育フォーラムでの発表に向けての準備（10月27日）
- 名張市のアピールしたいものについての考察（9月1日）
- デザイン原画作成（9月22日）
- ゆるきやらの作成方針決定（8月18日）
- ぱりっこモール（子どものお祭）のお店決め（7月14日）
- ぱりっこ会議スタート（6月16日）

2回～9回はぱりっこモールの本番に向けて意見交換や出し物の準備をメインに進む

2019 6 7 8 9 10 11 12 2

1.〈今年度の活動を振り返って〉

名張市の小学生・中学生と「名張市を今よりもっとよくしたい」という気持ちで自分たちに何ができるのかを楽しく話し合った。話し合った結果、ゆるキャラを作ることになった。

子供たちとデザイン画を考えた。名張市のアピールポイントを服や髪の毛に取り入れたデザインに決まった。

そして、キャラクターの名前を子供からアイデアを出してもらい、そこから投票で名前を決定した。（なばりん）次にどういう個性を持ったキャラクターにするかを話し合いプロフィールを作った。

12月には教育フォーラムの提言式において市長さんに提言書をメンバーが手渡し、その後名張市のキャラクターとして公認された。この活動と並行してぱりっこモールという、こどものお祭の準備も行った。こどもたちの楽しみにしている活動で企画から接客まで全てを自分達で行うという活動である。自分達はそれの補助を行った。ぱりっこモール当日はどのお店も盛り上がりとても良い雰囲気だった。



2.〈実施主体様の声〉

ぱりっこ会議から市政への提言には子供たちが秘めている「こんなのがあったら」「こうなればいいな」という想いを汲み取らなければなりません。その為には子どもたちの輪に溶け込んで、子どもたちが「この人なら」という安心感を持って自発的に話せるような雰囲気づくりが大切です。

今年度は「自分たちの街を広く知ってもらうために、名張市を紹介するキャラクターを作りたい」という子どもたちの想いを、皇學館大学プロジェクトメンバーが持つ「寄り添う心」と「導く力」により、「なばりん」誕生として結実することが出来ました。

大学生のみなさんには、ニーズを掘り起こして成果に結びつけるという今回の経験を、今後のステップアップに活かしてください。

▲話し合いの様子

3.〈特にアピールしたいポイント〉

他のCLLの活動と異なっているのは大学生の意見だけではなく、小学生、中学生、高校生と幅広い層がプロジェクトチームにいること。各年代でももの見方は当然異なり、様々な視点からの意見を聞くことができること。

自分達のほかにもジュニアリーダーというグループが活動していてその皆さんからこども達とのコミュニケーションの取り方を学ぶことが出来ること。

▶
なばりん

